

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		07 05 08	中期総合計画主要施策番号		2-08,3-04	担当課	部・課	商工労働部 労働雇用課	
事業名		シルバー人材センター支援事業					内線	2478	
							E-mail	rodokoyo@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	・高齢者の活力ある地域づくりを促進するために、「社団法人長野県シルバー人材センター連合会」の事業運営を支援する。							
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・国の新雇用戦略において、センターの会員数を2010年度までに100万人とする目標が示され、会員獲得や各種事業の取組みの強化が求められている。 ・少子高齢化の進展に伴い、高齢世帯の生活支援や子育て支援等のニーズが高まっている。 ・団塊世代が定年を迎え、多様な就業機会の確保が求められている。							
		【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・定年の引上げ、継続雇用制度の導入等により働き方が多様化している。 ・指定管理者制度の導入等により、公共部門の受注が減少している。また、雇用情勢の悪化により、民間における受注額の減少が顕著になっている。							
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・「長野県シルバー人材センター事業活性化計画基本方針」に基づき、連合会が行う会員拡大や就業確保・職域開拓等の事業を支援する必要がある。							
	事業内容	・(社)長野県シルバー人材センター連合会が行う就業先の開拓や会員の拡大等の業務に対する補助。 (補助率:【国】1/2、【県】1/2)							
実施期間	H10 ~		根拠法令等	「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」、「高齢者就業機会確保事業費等補助金交付要綱」					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	センター事業の活性化を図ることにより、多様な就業機会の確保など、魅力ある事業の展開を図り、会員獲得や各種事業の取り組みを強化する。		会員数の増加を図り、契約金額を確保することを目標とする。			平成21年3月末の実績は、会員数18,316人と伸び、契約金額949,600万円であった。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	5,386	6,529	6,529	国庫・県単	県単	
	決 算 額 (B)		千円	5,386	6,529		実施方法 補助		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	5,386	6,529	6,529	歳出節別内訳等	・補助金:6,529 (単位:千円)	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.50	0.50	0.50			
	概算人件費 (C)		千円	3,570	3,575	3,575			
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	8,956	10,104	10,104				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	登録会員数		人	18,106	18,316	18,600	・1新規センター(4村加入)が設立し、3村が既設センターに加盟することにより、未設置町村の解消が進んだ。		
	契約金額		万円	977,400	949,600	949,600			
	就業率		%	94.8	94.2	-			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・昨年から世界的な不況により、極めて厳しい雇用情勢が続くなか、シルバー人材センターにおいても、特に民間部門の受注額の減少により、契約金額及び就業率が低下傾向にあるが、全国的には高いレベルにあるため、前年度並みの維持・確保に努め、さらに新たなニーズや今後伸びていく分野の事業開発等、新しい就業分野の拡大が必要である。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	課題の総括		・「長野県シルバー人材センター事業推進連絡会議」(構成員:労働局・県・長野県シルバー人材センター連合会)等を通じて協議・検討する中で、労働局との連携を更に密にして、魅力ある事業や時流にあった運営基盤の確立に向けた支援を行っていく。						